

第5回美作市総合教育会議 議事録

- 1 日 時 平成29年1月23日（月）午後3時～午後5時
- 2 場 所 美作市民センター 3F大研修室（美作市栄町35番地）
- 3 出席者 （敬称略）

(1) 構成員

市長	萩原誠司
教育委員長	福島信夫
教育委員長職務代理者	杉山知子
教育委員	佐々木勇
教育委員	須田多香子
教育委員	平田邦義
教育長	大川泰栄

(2) 職員

教育委員会	教育次長	山名浩二
	教育総務課長	皆木敏治
	学校教育課長	忠政勇之
	社会教育課長	宮前聖
	教育総務課総務係長	渡邊祥子
	教育総務課主任	綱澤知則
企画振興部	企画振興部長	池田義和
	スポーツ振興課長	枋岡雅之
保健福祉部	保健福祉部長	江見勉
	健康づくり推進課長	山下富貴子
総務部	総務部長	山本直人
	秘書課長	春名利亮
	秘書課主任	濱田宏治

- 4 議題及び議事概要 別紙のとおり

1 開 会

(事務局)

ただいまから、第5回美作市総合教育会議を開催いたします。開催にあたり、萩原市長からご挨拶を申し上げます。

2 市長あいさつ

(萩原市長)

第5回目の総合教育会議となりますが、市内の状況につきまして、ふたつ申し上げますと、学力についてはご承知のとおり、向上が見られます。障がいのある子どもたちについては、まだまだ対応が必要ではないかと思っています。今年の予算編成においても反映しているが、国の予算編成の状況を見ると、財務省と文部科学省の対立というか、教員の定数問題をどのように解決するのかというところに注目が集まっており、久しぶりに文部科学省が勝利したという状況です。その背景は、全国から寄せられた、障がいのある子を持つ親たちの強い思いが政府全体として理解されたのではないかと思っています。

今回点検をする際に、そういった意味を含めながら、議論を深めていただければと思います。

3 教育委員長あいさつ

(福島委員長)

教育委員会を先ほど開催して、教員の残業の問題等の話しが出たり、学力向上をさせるには、教育の資質の向上が必要ではないか、というような話しが出てきました。本年も、より一層の学力の向上が見られるようにご協力をよろしくお願いしたいと思います。

私事だが、今年から民生委員も兼ねさせていただき、社会福祉の方とも関連を持ちながら、障がいのある子どものバックアップ等もできるよう、考えていかないといけないと思っています。今後ともよろしくお願いします。

4 協議事項

(1) 美作市教育大綱に基づく施策の取組状況について

(春名秘書課長)

それでは、早速ですが、協議の方に入らせていただきます。以後の進行は、規定により、萩原市長をお願いします。

(萩原市長)

第1項目目、美作市教育大綱に基づく施策の取組状況についてを議題とします。事務局から説明をお願いします。

(春名秘書課長)

第1項目目の美作市教育大綱に基づく施策の取組状況についてですが、先ほど開催されました教育委員会において、教育委員の皆様には、資料1、並びに資料2に

基づきまして、内容の説明があったことと思います。これに基づく説明を省略させていただきまして、事務局の各部の方から追加説明等がありましたら、説明させていただきたいと思いますが、よろしいでしょうか。

(一同)

了承。

(山名教育次長)

教育部局につきましては、先ほどの教育委員会の中で、話をさせていただいておりまして、その他にはありませんので、ご了承いただければと思います。

(萩原市長)

市長部局の方からありますか。

(春名秘書課長)

秘書課の方から説明させていただきます。資料2、19頁の4. 美作市の高等学校教育その他の学校教育の現状と課題、ということで、(1) 県立高等学校(普通科)の魅力向上について、この中の項目には特になのですが、こちらの方で取り組んでいる内容がありますのでご紹介させていただきます。

林野高校において、昨年春から、Googleのノート型パソコン「Chromebook」を活用したICT教育の実証実験ということで、該当校がないかのお話があり、Google、また、明治大学国際総合研究所等との共同によりまして、まず、テクノロジーを使用しての生徒の学習効果を向上させる、教員の業務の無駄を軽減させ効率化を図る、また、教員のイノベーションスキルを磨く等との目的で、Googleの方が、クロームブックを提供していただけるということで協議を進めておりましたところ、林野高校がその該当で選ばれております。これにつきましては、全国で30校の実証実験を今年から来年にかけて行うということで、その1校として、林野高校が選ばれております。

現在の進捗状況ですが、10月中頃から、通信状況の確認、県教委になりますが、実証実験の契約準備、また、クロームブックの資材の準備等が行われております。一番の近々の状況でございますが、今月、貸与用のクロームブックが30数台、林野高校の方に導入されると言うことで、予備実験に入ります。また、教員のトレーニング、学習用の資材の作成に入りまして、当面、4月から9月までの6か月間、実証実験を行う予定となっております。なお、クロームブックの方は、1学年分、約140台を提供いただくよう、現在要望しているところとのことです。

項目にはありませんが、魅力向上に向けた現在の取組みを追加説明させていただきます。

(萩原市長)

私の方から1点、資料1の1. 美作市の子どもたちの現状と課題・(1) 就学前教育の質の向上について、指標が「小学校入学時の特別支援学級の在籍率が6%を下回る。」と(2) 特別支援教育の推進の指標が、「特別支援学級の在籍率 6% → 4% (岡山県の平均在籍率に) とありますが、これでは達成してないということになります。目標設定が間違っているのではないですか。

必要な子どもには必要な支援をすることが当然であって、目標を設定するとすれ

ば、支援を必要とする子には支援が行き届くようにしますという目標が良いのではないか。

その支援というものが、支援を必要とする状況から改善につなげたいといことであれば、支援から脱却するという目標にすべきであって、何もしないうちから数を減らすというのはおかしいのではないか。

(大川教育長)

昨年におきましては、一番良くわかる、あるいは美作市の状況を端的に示す数値として、支援学級の在籍率が県下で最も高いとわかる、ということでしたが、確かに、支援がどのようにつながっていくか、特に小学校入学時の在籍率というものは、保育園、就学前の時に療育に繋ぐことができれば、落ち着いた学級づくりに繋がるのではないかとということです。数値的には変わらないというか、むしろ療育に繋ぐことで、あるいは、巡回等を充実させることでたくさん発見されるということができてきます。ですから、むしろ、今までよりは気が付かれることが多くなったということで、数値としては増加している。今後は、発見をどう支援に繋げていくか、ということが指標としては良いのかもしれませんが。

(萩原市長)

目標設定自体を変えてください。

(佐々木委員)

非常に重要で難しい部分だと思うのですが、それを認定するのが客観的にできにくい面があるので、判断する人材の研修ができているのかどうかというあたりが問題だと思う。

(萩原市長)

そうするとなおのこと設問とのかい離が出てくると思う。発達障がいを疑うケースにおいて診断の結果が出るまで3ヶ月くらい、場合によっては10ヶ月くらいかかることがある。そういう問題が出てくる。そういう問題を抱えている人について、行政が責任を持って適切な対応を行うことが必要。

無理をしないで、ちゃんとした支援、支援を行うところの診断が適切に実施されることを目標とする、とした方が良いと思う。

それから、小学校における英語教育の話が少し進んでいますね。これは新しい話として進んでいるのですか。いつから始まるのですか。

(大川教育長)

平成31年度からです。

(萩原市長)

英語教育の何が変わるのですか。

(大川教育長)

一番変わるのが、小学校が今までは教科という位置づけではなくて、外国語活動ということで、外国語を身近に感じることであった。それが、小学校高学年、5・6年生では教科に位置づけられる。

(萩原市長)

教科に変わることも明らかになっていて、平成31年度から始まることも明らかに

なっている。そろそろ、大綱の中に位置づけをしなければならないのではないかと思う。内容と対応を考える必要がある。

それと、新しい学習指導要領によって、今までやっていたものでなくなるものがあるのですか。

(福島教育委員長)

なくなるものはないですね。

(大川教育長)

総合的な学習が少しふられてこちらが増える。今、小学校5・6年生は、授業時間は毎日6時間で、一日だけ5時間という状況の中でやっています。

(萩原市長)

そこを視野に入れた大綱にした方が良いでしょうね。

(大川教育長)

現状でも美作市では、市内の学校で先取りというか、ALTが全小学校に、一つの学校に一日おられますので、何らかの形で触れる機会はたくさんあるのですが、時間を作ってということは、今はしていない。そこを今後は、少し時間が厳しいかもしれませんが、活動としての時間を増やすことはできると思います。

(萩原市長)

国の方針の一つとして、オリンピック組織委員会の会長である遠藤さんとお話しをしたのですが、英語教育について、実状行っている試験というものをベースにして、〔聴取不能〕。

そうすると、中学校卒業時に英検3級を少なくとも受験をさせなければならない。その辺りについて、どう対応していくのかを明記せざるを得ないと思う。

(大川教育長)

英検については、受験率1%。

(萩原市長)

世の中はどうか。

(大川教育長)

世の中は50%です。

来年は美作市で英検が受験できるように、申請すればできるので、市内で会場を確保します。

(萩原市長)

英検の場合、受かる、受からないテストなんですけど、他の点数制の試験もあって、やっておいた方が良いでしょうね。

(大川教育長)

今まで、中学生は美作市内での受験機会がなかった。

(萩原市長)

その辺りを大綱の中に表現したら良いのではないですか。

(大川教育長)

学力向上の中に一つ、項を設けないといけないと思います。

(萩原市長)

学力向上じゃなくてもいいんだけどね。学力測定とか。

(佐々木委員)

美作管内の動きとすれば、幼稚園からやっているところがある。そうしてみると津山ではちょっと厳しい所があるんだけど、今後3年間で、かなりやっていくように計画されている。

〔聴取不能〕はできるか聞いたのですが、小学校5・6年生は2時間。そうすると、1時間は別として、毎日15分ずつやれば、達することができる。だから、学校でいろいろと改善しながら、できるんじゃないかなという思いはしています。

(大川教育長)

ALTの充実であったり、そうしたことは予算化していきたい。

(萩原市長)

予算化は別として、大綱に書く。

(佐々木委員)

市内にネイティブの方が増えてきているので、そういった方も活用すれば、かなりそういった助っ人になるのではないのでしょうか。

(萩原市長)

なるでしょうね。

英語と中心として、新しい取り組み方に変ってくる。その辺りをある程度意識した書き方になると思います。

(杉山委員)

美作市の小中学校に配属されているネイティブの人は、いろいろな国籍の方がおられて、国によって発音の仕方も多少違いがありますし、子どもとの付き合い方が大事だと思いますが、どういう所から派遣されるのですか。

(大川教育長)

英語を公用語とされる国の方。ただ、JETプログラムの場合は、英国や北米を依頼するんですけど、選べないです。それから、小学校の方のALTに関して言えば、契約の状況として、少なくとも英語を公用語とする方となっています。

(萩原市長)

様々な国から来られている。英田中学校にはジャマイカの方が来ていたりする。良いことなんですけど。

(大川教育長)

ジャマイカとかオーストラリアとか、今中学校に来ている人はグレートブリテンなんですけど。

(萩原市長)

この制度は少なくとも10年か20年したらなくなると思います。この制度がなくなるように、日常的に英語が使われるように政府は目指している。

(大川教育長)

教員採用にもそういう枠が設けられている。

(萩原市長)

文脈から見ると、学校の先生方、幼稚園教諭の方々、保育園の保育士の方々は事務処理に追われて大変忙しいというのがあります。そういった中で、事務処理の情報化、支援システムがその解決に資するのではないかということが、国の議論の定説として認められている。小中学校だけじゃなくて、幼稚園についても。

(大川教育長)

学校の事務支援ということで、中学校は1校を研究指定ということで、どういうソフトを組んだら良いかとか、様式はどうかとか、どういうものが必要かというのを一年かけてやり、平成29年度からは、中学校に関しては、ほぼ同じ形でできるようになる。これは、同じ中学校でありながら、事務処理で微妙に形式が違っていたりするので、そこを改善する。平成29年度からは、小学校についても同様に研究指定を行う予定です。同じようにしていったら、平成30年度にはそうした事務処理システムを導入します。

幼稚園や保育園においては、保育園の支援で、登園管理システム、今、CMでご覧になったことがありませんか。登園してカードをタッチすれば、それで全部登園の管理ができる。

(萩原市長)

具体的な取り組みはさておき、そういった学校・園の教員をサポートするシステムの導入について、働き方改革とか、あるいは授業への集中を促すということに繋がるかと思います。

(佐々木委員)

かつて、ゴミ箱をそれぞれに置いておいていたところ、ゴミの量が多くなって、それじゃダメだということで、ゴミ箱を減らしていったら、ゴミの量が少なくなり、おまけに紙の使用量も減ったことがあった。そういうこともできたんで、私は改善すればできるんじゃないかと思う。私が〔聴取不能〕になった時は、とにかく早く帰れということで、6時半か7時までには帰れ。もう鍵を閉める、電気消すぞと言ったところ、いろいろ改善すればできたんで、できんことはないんじゃないかと思う。

それから、保育園等でもタイムカードで遅くまでされたり、家に帰れば小さいお子さんがおられたりでしたいこともできない、という方もおられれば、だんだん保育士になりたくない、とか、学校等に努めたくないとか、そういう風になってくるんじゃないかなと思う。だから、意識改革もいるんじゃないかなと思う。

(萩原市長)

学校事務支援システムを入れる時に、意識改革の為にも研修・訓練みたいなものに助成をしますよと。

(佐々木委員)

分掌が関わってきていて、出来る人の所に集まってくる。だから、分けていくと言うか、そういったこともきちんとさせる必要がある。

(萩原市長)

他にこの件でございますか。

社会教育の分野はどうですか。

(大川教育長)

文化芸術分野について、今年行ったジャズ公演が好評で、来年度も是非。

(萩原市長)

大野氏に連絡するように。

(大川教育長)

子どもたちが観賞できるようなものを開きたい。

(萩原市長)

スポーツ関係について、どのような合宿が来るのか、部長の方から説明をお願いします。

(池田企画振興部長)

スポーツの合宿につきましては、オリンピック、ラグビーワールドカップの代表合宿を視野に入れた合宿の誘致を進めていきたいのが一点と、もう一点は、自衛隊体育学校の女子ラグビー部。これにつきましては、昨年9月にお越しいただいて、合宿を行っていただいたのですが、引き続き、来年度も9月頃、合宿を行っていただくよう話しを詰めています。これに伴いまして、水泳とか、アーチェリー、そして陸上の競歩、こういったものの合宿の誘致を進めていきたいと思います。

それからもう一点、まだ未確定の所もございしますが、来年度、女子ラグビーのナショナルチームクラスが、美作市に来ていただける可能性が、今出てきています。そういうところも含めて、今後、誘致を進めていきたいと思います。

(萩原市長)

今年はいろいろと来られます。

先日、遠藤大臣と合宿ということについてお話ししたところ、2019年のラグビーワールドカップのナショナルチームの合宿を誘致しているというお話しをしたところ、かなり気に入っておられた。大臣も審査員であり、かなり面白いことになるかもしれない。今年の夏から秋にかけて合宿をやって、ラグビーの合宿が少なくとも2件くらいやってという感じです。

それから野球のノンプロのチームが美咲町から移転してくると言う話しがあって、だいぶ話しが進んでいる。

(佐々木委員)

いいものが見えるのはいいですね。

(萩原市長)

スポーツと文化の両方〔聴取不能〕。大人も楽しめますし。

(大川教育長)

先日の日体大の際に、辻沙絵さん、パラリンピアンの方ですが、話しが良かったです。

(萩原市長)

次の話しに進みます。

(春名秘書課長)

次の2項目目でございますが、PTAとの懇談会の実施結果報告について、でございます。教育次長よりお願いいたします。

(宮前社会教育課長)

昨年の夏から行いました PTA との懇談会での主な質問・意見等を報告させていただきます。大きくは6項目とその他を入れまして7項目となります。

以下、資料3読み上げにより説明。

(萩原市長)

これ、聞いたことをそのまま書いているのですが、中には、合理化だけで学校統合を考えて欲しくないとの意見がありますけど、一切説明してないのにこのような意見が出たりしている。

(大川教育長)

噂だけで話をしている。

(萩原市長)

民間に委託されてから云々と言った方があるけれども、直ちに他の父兄の方から、いや、そんなことはないと言った声が出る。

残菜調査はしているんでしょう。増えているのか減っているのか。

(大川教育長)

しています。特に減ったということはないです。

(山名教育次長)

1月にもう一度実施させてもらって、逐一調査させていただきます。

(萩原市長)

何人栄養士がいるのですか。

(山名教育次長)

4人です。

(萩原市長)

その中に〔聴取不能〕を持った人はいるんですか。

(山名教育次長)

いません。

(大川教育長)

残念ながらその中に正規職員は一人で、残りの二人が代理人です。

(萩原市長)

担当している学校が違うんですね。

(大川教育長)

そうです。4センターそれぞれに一人です。

(佐々木委員)

残さないで食べさすというのが、ちょっとできてないんじゃないかと思います。

(萩原市長)

どうなんですか。

(佐々木委員)

せっかく作っていただいているのですから。

(大川教育長)

ほとんどの学級で、小学校なんかは、15分～20分の食べる時間。あまり長くはない。で、その中の例えば最初の10分間は、しっかり食べることに集中しましょう、というようなことで、できるだけ多く食べてしまうように、という形にしています。

(須田委員)

冷たいというのは言われます。前の給食の方が良かったと言う意見は聞きます。

(大川教育長)

いや、温かいのが行っています。教室で配膳をして、お盆の上において、しばらくすると冷めますが、それはまあ。

(萩原市長)

まったく現場を見ていないかもしれませんね。

(杉山委員)

昔は必ず全部食べなさいという指導だったのですが、最近は、その子に合わせて食べさせる、嫌いなものは残していいよ、という風になってきていると聞いたのですが、食育の観点からどちらが先行しているのですか。

(大川教育長)

変わっていません。

(萩原市長)

肥満の問題もあると思いますが、カロリー数はどうなっているのですか。

(大川教育長)

カロリー数は減っています。栄養状況が良くなったので、昔、つい10年程前までは、一日に必要な量のほぼ半分近くまでいっていたのですが、今は1/3になっています。

(萩原市長)

残菜の調査はしてみてくださいね。何故こうなっているのか。

ということで、PTAの懇談会で出た意見は順次対応していきます。で、この中で、冷暖房については、特別支援が必要な子どもたちを対象にして、支援学級に全面的に入れていき、フォローしていく。一つの解決方法だし、英田でやってみた結果、一番顕著だったのがそこだったので。

最後はその他ですが、たまたま美作警察署長がお越しになられて、管内の刑法犯その他の状況について説明されました。全県的にそうなんですけど、減っていると言っている状況になっています。教育委員会の関係については、一番下の部分になりますが、刑法犯少年・不良行為少年総数になるんですけども、総数を見ると減りつつある。罪種別で見ると、傷害。先生に対するのが3件あって、それが上がっている。そして若干、万引きがある。

1頁めくっていただくと、小中高の別にあって、平成28年の総数が11。多いとも少ないとも言えませんが、そのうち、小学生が5件ある。これは若干多い方で、これはある特定の学校に集中しています。これは環境に〔聴取不能〕、教育をしているかと思っています、ということです。

それから、不良行為少年数が24件あって、深夜徘徊が13件上がっている。ただ

し、そんなに悪いことばかり書いてあるわけではなくて、警察の方で、これが変な方向に発展しないようにというデータです。深夜徘徊も徘徊というか居場所がなくてたむろしているというわけです。

子どもが被害を受けたというもので言うと、少し増えていますね。声かけ、不審者、公然わいせつ、強制わいせつ、これは女子高校生が被害に遭いそうになったというやつです。この関係でちょっと申し上げておきたいことは、こういった問題が発生したときに、捕まえる、あるいは未然防止するときに、防犯カメラが非常に役に立っているのです。今後も、県の補助がなくなるかどうかも別にして、それなりの対応をしていきたいと思っております。それぞれの地域、学校において。学校はついていますね。通学路ですね、あるのは。

(大川教育長)

校門とかに。

(萩原市長)

市が設置した防犯カメラの映像は警察に協力することをうたっています。

(大川教育長)

学校の防犯カメラも同様です。

(萩原市長)

他にその他はありますか。

(平田委員)

広報誌の2月号にアンケートの結果が乗っていて、保育料の軽減とありましたが、どのようなものですか。

(萩原市長)

その点について2つ申し上げますと、ひとつは、今年度も実施していますが、国や県の方針と呼応して、第3子以降の保育料の軽減を行っています。それから、幼稚園についても国が検討しています。それは、保育料が先行した関係で、幼稚園が厳しくなっているので、検討しています。

独自財源を使う時には、市内に幼稚園が2園ありますね。土居と東栗倉。土居幼稚園が厳しくなっていて、話しを聞くと、延長保育料を考えると幼稚園の方が高くなると。比較すると、月に4万5千円が5万円になると。

(佐々木委員)

資料3の意見をみて、こういう声が出てくるのは、普段、学校にあまり関係のない大人の方が言われているんだな、という面も多くみられる。地域の方、保護者〔聴取不能〕、持っていれば、こういう風な困ったことがあるんだ、それなら私たちも協力するわ、というような意見も出てくるのではないかと思う。

その他の②通学路の草刈りや歩道の整備をしてほしい。このあたりは、地域で草刈りするとか、整備してやろう、守ってやろうと言う声が出るんじゃないかなと思うんですよ。

(萩原市長)

だから、これは全部書けばいいんだけど、〔聴取不能〕。

これでだいたい協議事項は終わりましたが、他にないようでしたら終わります。
(春名秘書課長)

他に連絡事項等もございませんか。

それでは、これを持ちまして、第5回美作市総合教育会議を閉会いたしたいと思
います。本日は大変ご苦勞さまでございました。